

# 兵庫県立パース事務所

## インターンシップ報告書

経済学部 2 回生  
鈴木義浩

実施期間：平成 30 年 2 月 19 日（月）～3 月 13 日（火）

### ・インターンシップの研修内容

中学生の事務所訪問でのお手伝い  
日本語アシスタント  
小学校訪問  
日本祭りの準備  
チャターボックス  
日本祭り  
日本領事館訪問  
雑用



### ・インターンシップで必要な英語能力・スキル

意思疎通が難なくできればよい。  
最低限のコミュニケーション能力が必要である。

### ・インターンシップで得たこと

海外で働き、英語で仕事をするという新鮮で刺激的な経験をする事が出来た。また、楽しみながら英語を扱うこともでき自信を得た。日常会話を円滑に行う能力、そして表現に様々な色をつける英語能力が向上した。

また海外の人に日本文化を伝えて行く中で、「なんて日本文化は素晴らしいのか」と改めて感じる。日本に住んでいながらも漠然に過ごしていたことがよく分かる。もっと日々何ごとにも対して興味をもっていかねばならないと痛感した。

### ・印象に残ったこと

#### 1. 信号が短くすぐに変わること。

歩くのが遅い人にとっては厳しい仕組みだが渋滞を減らすことが出来ているのではないかと思います。一方すぐに変わるにも関わらず信号無視をしている人が多いようにも感じた。車を止めた

くないという心理から来ているものか分からないがそれも関係しているのではないかと考えさせられる。

## 2. 気安くしゃべりかけてくる人が多い

普段何気なく過ごしていて他人とお喋りする事なんてそう何回もないだろう。だがレジの人は絶対に話しかけてくるし、みんなバスの人に挨拶をする。バスの後ろの扉から降りるときでさえ大きな声でありがとうと言う。普段他人とはあまり喋らない私にとっては新鮮で素晴らしい文化、習慣だと感じた。

## 3. セキュリティが厳重

天気も良く人もいい人しか会っていないので犯罪なんて起きないだろうと思えるところだが、窃盗が結構あるらしい。自転車屋だが1週間で4件も盗まれたところもあるらしい。それ故にセキュリティが厳重である。

### ・インターンシップが今後どう活かされていくか

小さな一歩だが毎日知識を蓄積しようと欲するようになった。また、抽象的だがグローバルな観点から知識を増やすことによって日本人としての意思力を高めることにつながるのではないかと思う。

仕事や生活に柔軟に対応していく経験がここで出来たので、今後そのような機会があれば活かせる自信がある。英語も話すことに躊躇なく自信をもつことができたので、将来英語を武器にしたいと考えている。

### ・後輩達へのメッセージ

3週間で何が出来るのかと疑問に思うかもしれない。そもそも「パスってどこだろう？」と思うかもしれない。英語が苦手な人は話すのは自信ないと思うかもしれない。そんなものは実際に行かないと何も分からないし、外から見ていて分かるものではない。他人の話を聞いてそういう事なのかと理解し、鵜呑みにしてしまったら勿体ない。自分で感じ、自分で熟考することがこの研修で大事な事なのだと思う。

3週間は短いと思っても大学生にとってお金はなかなかかかる。そこでこのプログラムを活用することで通常より安く、また多く経験が詰める。

向こうでやりたいことがある人なら充実した研修になると思うが、急に向こうで何がしたいかと聞かれても、現実的で具体的な計画が立てられるのかどうかも想像しにくいと思う。それでも数少ないチャンスなので飛び込んでみるべきだと思う。大きな行事として日本祭りはある。そこで何を売るかによって作業内容が大幅に変わる。要するに運による要素も大きい。その運を大きくするのも自分自身なので、なんでも積極的に取り組んでいって欲しい。

